

# 太田篤さんを偲んで



日本証券金融 名誉顧問 小島邦夫  
(留学生支援企業協力推進協会 元理事長、前評議員)

私が経済同友会での活動を開始したのは1997年でしたので、事務局職員であった太田篤さんのことはもちろん存じ上げていましたが、太田さんと日々接するようになったのは、経済同友会の専務理事に就任した2006年からでした。同年に留学生支援企業協力推進協会(以下、留学生協会)の理事長を拝命したことで、当時、経済同友会で政策調査を担当する傍ら、留学生協会の専務理事・事務局長を兼任されていた太田さんに、設立経緯から事業継続の厳しい状況についての報告を受けることになりました。

実は、私自身、留学生協会の理事長に就任するまでは、この団体の概要をよく理解しておりませんでした。1985年に経済同友会が発表した意見書『世界に開かれた活力ある国土の形成を求めて』(田淵節也委員長)における、草根の国際化を国民運動として展開するために提唱したニッポンプログラムの一つとして実現したものでした。主にアジアを中心とした外国人留学生を日本企業の社員寮に受け入れる取り組みが提案され、他の経済団体の熱心な支援の下にこの留学生協会が設立されたこと、設立にあたり当時の文部大臣が経済同友会を訪れ、代表幹事に感謝の意を示したこと、なども太田さんから伺いました。

当時は日本の内なる国際化として、いかに外国人留学生を呼び込み、親日家を増やして日本に取り込んでいくとともに、国内にいながらも日本人が他国の優秀な人材とネットワークを持ち国際化していくことが国としての課題でもあり、民主導の先進的な取り組みは経済界や政府からも注目されていました。

太田さんはこの立ち上げのときから関わり、2004年より専務理事・事務局長として留学生協会の業務に専念されることになりました。設立時の盛り上がりは徐々に影を潜め、企業からの社員寮の提供や賛助会員の減少が続いていました。そして2009年から2011年にかけて政府からの補助金も絶たれ、危機的な状況に直面することになりました。追い打ちをかけるように事務所の転居も余儀なくされ、私も微力ながら、事務所移転の協力をいたしました。

このような中、経済同友会で育った太田さんは、政府に頼らずとも民間の力でできることをやっていけばよい、という考えに基づき、自ら企業へ働きかけて社員寮を増やしていき、留学生へ提供することに懸命に取り組んでいました。さらには、企業側と留学生とが情報交換できる場や、日本企業に就職した元留学生が日本で働く際のアドバイスをする場を設けることや、経済同友会会員を巻き込んで留学生に向けた講演会を開催するなど、精力的な活動を続けました。こうした太田さんの努力が実を結び、2013年に公益財団法人として第2のスタートを切ることができ

ました。

太田さんが骨身を惜しまず、留学生に真剣に向き合い、支えてきたことは、留学生の皆さんが一番よく分かっていることと思います。温かくも時には厳しいこともしっかりと伝えて、親身になってサポートをしてきた太田さんを慕い、集まってくる留学生も多かったのではないかと思います。卒業後も留学生協会に恩義を感じて、今も寄附を続けてくれているOBもいると聞いています。こうした太田さんの熱心な取り組みを通じて、政府の留学生協会に対する見方も多少は変わってきたのではないかと私は思っています。

自費留学で苦勞しながら日本に学びに来る外国人留学生の宿舎をどうすべきかは、本来、国が考えることです。それを民間企業の社員寮という枠組みを活用して、留学生がアルバイトに明け暮れることなく、勉学に励める時間を提供するとともに、日本人との生活の中で、お互いの文化を理解していく、という協会の軸となるこの取り組みは、非常に素晴らしいものです。しかし、人の面倒をみるというのはそう簡単な仕事ではありません。当然リスクもありますし、報われないことも多い。だからこそ、熱意をもって、懸命に支えていく人がいないと、こうした事業は成り立たないのです。それが太田さんでありました。

足元ではコロナ禍による若干の減少があるかもしれませんが、外国人留学生は増える一方で、2020年を目途に留学生30万人の受け入れを目指すという政府目標も2019年に達成されました。社員寮が減少傾向にあるといわれて久しいですが、むしろ、社員寮に対する考え方を見直し、増やし始めている企業もあります。海外留学した人は、現地の方々に面倒をみてもらった経験があるでしょう。日本に來ている外国人留学生を日本企業やその社員が支える機会を持つことは、日本にとっても非常に有益なことではないでしょうか。

太田さんが使命感をもって取り組まれたことは、今後さまざまな形で効果が出てくるはずです。太田さんのやり残してきたこと、遺志を引き継いでいくことは、容易なことではありませんが、留学生協会が社会に必要とされる限り、この協会を生んだ経済同友会や経済界が積極的に関与して事業を継続していくべきではないかと考えます。

私は太田さんがこんなにも早くご逝去されるとは夢にも思いませんでした。貴重な人材を失ってしまった悲しみは今も癒えることはありません。太田さんのやる気に満ち溢れ、澆刺とした笑顔が今も目に浮かびます。アジアとの懸け橋となられた太田さんの功績を私たちは忘れることはないでしょう。心からご冥福をお祈り申し上げます。



留学生協会の事務所にて  
卒業記念パーティー

(2013年)